

平成 30 年 3 月 26 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 細野 宗宏
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
主要施設における生産開始に向けた準備状況
及び今後の予定について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリア連邦において操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーと共にイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）の開発作業を進めておりますが、今般、陸上ガス液化プラント第1トレイン（天然ガス液化設備）、沖合生産・貯油出荷施設（Floating Production, Storage and Offloading（名称：イクシスベンチャー））、及び海底生産システム等にて必要な試運転作業が完了し、生産に向けた準備が整いましたので、お知らせいたします。



陸上ガス液化プラントの様子

本プロジェクトでは、すでに生産開始に必要な生産井を掘り終え、また、全長約890キロメートルのガス輸送パイプラインも完成しており、今後は、今年4～5月にかけて沖合生産・処理施設（Central Processing Facility（名称：イクシス エクスプローラー））にて生産開始に必要な試運転作業を終え、生産井からのガス生産を開始します。その後、コンデンセート・液化天然ガス（LNG）・液化石油ガス（LPG）の生産・出荷を順次開始・継続してまいります。

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

現地の気象状況や準備作業等により、今後も作業スケジュールは多少前後する可能性があります。引き続き、本プロジェクトに関するプロジェクトパートナー、地域コミュニティの方々、オーストラリア連邦政府、西豪州政府及び北部準州政府などのオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、本プロジェクトの成功に向けて引き続きまい進する所存です。

なお、今年度（2018年3月期）連結業績予想における利益見通しへの影響はありません。2018年度（2019年3月期）については、本プロジェクトからの収益貢献見通しを織り込んだ連結業績予想を決算発表時に公表する予定です。

以上

イクシス LNG プロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター、参加権益比率：62.245パーセント）としてトータル社（同：30パーセント）、台湾中油（CPC、同：2.625パーセント）、東京ガス（同：1.575パーセント）、大阪ガス（同：1.2パーセント）、関西電力（同：1.2パーセント）、JERA（同：0.735パーセント）及び東邦ガス（同：0.42パーセント）と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間約890万トンのLNG及び年間約165万トンのLPGとして生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）などから日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクトは、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。